

## 初期臨床研修プログラム：産婦人科

コース責任者：相田浩

指導医：相田浩 上級医：小幡宏昭、廣井威、堀内綾乃、奈良本葉月

コースの位置づけ：必修化として、0ヶ月、選択科として1ヶ月から

### I 一般目標 (GIO)：

全人的医療を実践するために、日常診療で遭遇する妊娠・分娩、産婦人科疾患および病態に適切に対応できる基本的な診療能力（態度、技能、知識）を修得する。

産婦人科は産科、婦人科、生殖医療の3分野に別れ、いずれも主に女性を対象とする。産科では胎児の全身状態および母体の妊娠時特有の健康管理を修得。婦人科では感染症・腫瘍・内分泌異常などの多岐にわたり、骨盤外科としての知識や技術を修得する。生殖医療では、不妊症の診断治療について修得する。全般を通じ、超音波検査を頻用することから、これらの操作も修得する。

### II 行動目標 (SBOs)：

#### A. 修得すべき基本姿勢・態度

##### (1) 医療面接

- 1) 受診者および家族との間に良好なコミュニケーションを構築することができる。
- 2) 総合的かつ全人的に patient profile をとらえることができる。

##### (2) 身体診察法

産婦人科診療に必要な以下の基本的身体診察法について、指導医のもとで実施できる。

- 1) 陰鏡診 2) 双合診 3) 内診 4) Leopold 触診法

##### (3) 医療記録

患者の訴えや診察所見から適切な評価を行い、治療選択に至るプロセスを要領よくまとめ、カルテに記載できる。

#### B. 経験すべき検査・手技・治療法

##### (1) 臨床検査

産婦人科診療に必要な以下の検査について、指導医のもとで実施できる。

- 1) 免疫学的妊娠反応や超音波断層法検査による妊娠の診断
- 2) 経腹および経膈超音波断層法
- 3) 膈カンジダ感染症などの感染症の検査

産婦人科診療に必要な以下の検査について、結果を評価して、患者・家族に説明できる。

- 1) 細胞診・病理組織検査および内視鏡検査
- 2) 基礎体温表、精液検査、ホルモン検査等の婦人科不妊内分泌検査
- 3) 骨盤計測、子宮卵管造影法、骨盤X線CT検査、骨盤MRI検査等の放射線学的検査結果  
妊産褥婦に避けた方が望ましい検査法を説明できる。

## (2) 基本的治療法

1) 妊産褥婦に対する投薬、治療をする上での制限等に基づいて、指導医のもとで適切な処方ができる。

2) 術後輸液療法を適切に実施できる。

3) ホルモン補充療法を説明できる。

## C. 経験すべき症状・病態・疾患

### (1) 産科関係 (指導医のもとで)

1) 妊娠・分娩・産褥ならびに新生児の生理

2) 正常妊婦の外来管理

3) 正常分娩の管理

4) 正常産褥の管理

5) 正常新生児の管理 (主として小児科)

6) 腹式帝王切開術 (第2助手として)

7) 子宮内容除去術 (見学)

8) 切迫流・早産

9) 産科出血に対する応急処置法

### (2) 婦人科関係

1) 骨盤内腫瘍

2) 外陰・膣・骨盤内感染症

3) 無月経、不正性器出血

4) 思春期疾患

5) 更年期障害

## Ⅲ 研修方略 (LS : Learning Strategies) :

(1) 研修期間の初日に、指導医から産婦人科研修のオリエンテーション (ガイダンス) を受ける。

(2) 指導医、上級医による医療チームの一員として、研修を行う。

(3) 適宜、指導医、上級医、コメディカルスタッフからのアドバイスをもとに、研修を行う。

(4) 外来診療：産科/婦人科/生殖医療の各外来担当指導医と共に、診察を行う。

(5) 病棟診療：入院患者の診療。毎日回診し、診療録を記載する。

カンファレンスで症例のプレゼンテーションをする (毎週月曜日朝)

妊婦の超音波検査、分娩管理/第1期～産褥期 (助産師と共に観察し、日中の分娩には全例立ち会う。会陰裂傷縫合を指導医の立会いのもと行う)。婦人科の周術期管理を行う。可能な限り手術に立ち会う。夜間の分娩・急患に関しては、拘束日を決めて、上級医とともに診療にあたる。

(6) 人間ドック：子宮頸がん検診。基本的な診察技術を修得する。

(7) 手術：原則として全手術の助手（基本的手術の執刀）。

(8) 症例検討会：毎週月曜日 8：00 より病棟において入院患者のカンファランス。手術患者のカンファランス。

小児医および病棟・外来スタッフを交えた分娩予定者の検討会：1/月

(9) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	カンファランス/病棟	病棟	病棟	外来	病棟
午後	外来	手術	外来	手術	手術

カンファランスは 8：00 より病棟

9：00 より検診棟にて人間ドック

#### IV. 学習評価 (Ev)

知識：レポート、ミニEPOC対応（症例プレゼンテーションやディスカッション、診療録からの評価）

技能：診察技術等に関して観察：指導医

態度：観察記録評価。指導医による。

レポートすべき項目：腹痛